

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	しらこぼと療育園越谷駅前		
○保護者評価実施期間	令和7年9月15日 ～ 令和7年10月20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	令和7年10月15日 ～ 令和7年10月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	6時間お預かりしますので、お子さんの生活スキル（食事・トイレでの排泄・着替え・所持品の片付け）に介入します。 お子さまの発達に合わせて、生活スキルの練習も個別対応します。	※食事、排泄、着替え、所持品の管理など、毎日行うことのルーティン形成を確実にしています。 ※トイレトレーニングを、データを取りながら確実にを行い、全員が就学までに布パンツで過ごすことを目指します。 ※昼食の際に、食具を使うことは、個別のトレーニングとして、練習します。	身に付けたスキルが、般化されるように、幼稚園や保育園に情報共有を行います。 ご家庭でも取り組むことができるように、映像で報告したり、実際の様子を見ていただいたりします。
2	生活すべてを、ABA（応用行動分析）の理論を活かして対応し、お子さまとご家族の過ごしやすさを追求しています。 それによって、お子さまの楽しめることが増えたり、お子さまの居場所（幼稚園等）に所属できたり、家族で出かけることができる場所が増えたりしています。	※保護者さまの願い、お子さまの発達段階、強みと苦手を確認し、近い未来のゴールを設定しています。 ※職員皆が、ABAを理解し、適切な行動を増やし、褒めて、苦手な場面の軽減を行っています。 ※当園で、できるようになることをゴールとせず、その先の願いに、繋げることを意識しています。	保護者さまの願いは、幼稚園・保育園・こども園や、ご家庭での姿が変わることです。保護者さまだけでなく、所属先の園と、より強い連携ができるように、関係機関との良好な関わりに努めます。
3	個別プログラムを作成し、お子さまの言葉の発達や知育活動の強化に取り組んでいます。 家族支援として、相談対応を積極的に行っています。	※個別プログラムとして、コンプライアンス・受容・表出・説明・指示理解・言語・数概念・SSTなど、一人ひとりに合わせて、実施しています。 ※面談を頻繁に行っています。ご両親で出席できるように、時間をフレキシブルに対応しています。	課題の内容がマンネリ化しないように、お子さまの学び具合を確認しつつ、新しいことを取り入れます。 それに必要な教材等も準備します。 家族支援として、保護者同士の交流の場を増やします。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	屋外での行動や、遊びを学ぶ機会がないこと	※現在お預かりしているお子さまの発達や、職員の人数を考えると、屋外に連れていくことが難しい。	※施設内の仕切りを外すことで、走ることはできます。運動遊びや、ルールのあるゲームや遊びの実施で、外遊びの代替えになるような活動を行います。 ※当事業所の弱みを理解し、お子さまが外遊びの経験ができるよう、幼保との併用を進め、療育時間のバランスを個々に検討します。
2	全職員が、お子さまの全体像を把握し、個別支援計画の内容を実行すること	※保護者との面談・幼稚園や保育園への訪問を、児発管のみが行っている。人手が安定することで、職員も一緒に同行する機会があれば良いと、考える。	※これまで通り、児発管が行った面談や訪問の内容は、共有します。 ※早急に人手を増やすことで、職員が、保護者さまの悩みや願いを直接お聞きする機会をつくります。
3	機能訓練士などの、専門的な知識の不足	※保育士中心で療育を実施しているため、専門的な分析力と情報が、少ない	※お子さまが利用している病院のOTさん、PTさん、STさんのコメントを共有していただき、療育内容青決める上での参考にします。 ※外部研修に参加し、知識を高め、共有に努めます。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 しらこぼと療育園越谷駅前

公表日 令和7年 12月 5日

利用児童数 24

回収数 19

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	1			・広くて清潔 ・身体を動かすスペースが十分に取れていると思います。	引き続き、子どもたちにとって、学びやすい環境を確保します。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	15	2		1	・よく見てくださっています。適切だと思っています。	職員を増やすべく、募集を続けています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	16	2			・適切だと思っています。	情報の伝達は、HUGというシステムを利用して行っています。越谷市からの案内など、情報発信を積極的に行います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18				・とても綺麗な環境だと思います。	引き続き、清潔を保ち、感染症予防・拡散防止に努めます。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18				・感情のコントロールや生活習慣も特性に合わせて教えてくれています。	一人ひとりに適した療育を行うと共に、保護者様の相談にも、しっかりと対応することを続けます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17			1	・合っていると思います。	今後、公表しているプログラム内容と、実情を照らし合わせ、必要に応じてアップデートします。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18				・そう思います。	引き続き、保護者さまにご要望をお聞きしながら、計画を作成します。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18				・設定されていると思います。	引き続き、「本人支援」「家族支援」「移行支援」の軸を、ぶれることなく、計画を作成します。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17	1			・思います。	「どちらともない」というご意見を受け止め、計画と実施内容を、今一度確認いたします。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15			3	・色々な活動をさせてくれています。	「わからない」というご意見に対して、日々の療育内容の報告の際に、より丁寧にお伝えします。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	8	1	4	5	・多少あります。 ・今は月に数回しか利用しておらず、不明。	幼稚園・保育園を併用している方が殆どですので、利用者さん以外と関わる機会を設けておりません。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18				・幼稚園の先生と上手くコミュニケーションをとって下さっています。	引き続き、関係機関との連携を密に、お子さんが所属されている各園と良い関係を築けるように努めます。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16	1		1	・説明していただきました。	アセスメントの際に、計画の方向性の共通理解に時間をかけることで、作成後は、簡単に確認していただきます。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17			1	・行われています。	利用者様向けのペアレントトレーニングや、研修会を実施しました。次年度も引き続き行います。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	18					引き続き、共通理解に努めます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15		1	2		保護者さまのご要望があれば、面談をおこなっています。引き続き、ご相談に対して、真摯に対応します。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17			1		「わからない」というご意見を受け止め、今一度、保護者さまの立場に立った支援を考えます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12	3	1	2	一人っ子なので、きょうだいへのサポートは不明。	年に一回、保護者様の交流のイベントを開催しましたが、新規利用者さまには、その機会を設けることができていない状況があります。時期を検討し、開催します。

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18				とても親身になって話を聞いてくださりアドバイスをいただいています。 ・幼稚園とも上手くコミュニケーションを取ってくれる。すぐに面談日を設定したり子どもと話をしてくれる。	引き続き、丁寧な家族支援に努めます。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16	2			・すぐにレスポンスがある。	「どちらともいえない」というご意見は、事業所の配慮が足りていないことと受け止め、見直します。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	16	1	1			連絡システムを利用し、個々への連絡、一斉送信にて、今後も情報をお伝えします。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18					引き続き、取り扱いに留意します。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18					マニュアルに沿った、訓練を実施し、保護者さまのご理解ご協力を得るようにします。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17			1		避難訓練の実施を、皆様にご知っていただくために、日々の連絡と共に伝えします。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17	1				安全管理に関して、周知が不足していると感じましたので、安全管理に関する報告を増やします。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16			2	・怪我等があった時は状況等細かく説明していただきます。	事故発生の際には、お子さまに適切な処置をすると共に、保護者さまに状況説明を行います。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	17	1			・すごく楽しそうに通所していると思います。とても感謝しています。	安心できる居場所となれるよう、今後も支援を続けます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	17	1			・今日やったこと、製作したものなど楽しそうに見せてくれたり、楽しんで通えています。	お子さま方にとって、楽しく、そして学びのある療育園であり続けられるよう、ひとりひとりを大切に取り組みます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	18				・満足しています。	安心できる居場所となれるよう、今後も支援を続けます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
しらこぼと療育園越谷駅前		令和7年 12月 5日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3		広い指導訓練室を、遊びの場・食事の場所として区切ることで、スムーズな活動の切り替えを支援している。	個室や大部屋を使い分けできるからこそ、扉の開閉の安全確保など、再確認します。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	2	基準人員は満たしています。	基準人員は満たしているものの、お子さまへのより良い支援の為に、職員の採用に努めます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3		各部屋にネーミングすることで、子どもたちが自分で、自分の活動場所に向かうことができるようにしている。	おもちゃや教材を、自分で取り出し、元に戻すことができるような、安全で構造化された配置を検討します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3		活動に合わせて部屋の区切りを変えています。	長時間お預かりし、食事と一緒にいきますので、衛生管理を引き続き徹底します。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		お子さんの特性や活動に合わせて、個室を活用しています。	個室という環境を活かし、さらに大部屋で般化できるように、フレキシブルな環境設定を心がけます。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3		毎日、全員でその日の支援の振り返りを行い、対応方法の修正や改善を話し合っています。	今後、職員が増える予定がありますので、勤務形態の違いがあっても、振り返りなどの漏れがないように、進めます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		アンケートを結果、改善点に対して、話し合いを設けています。改善点の実施において、少しずつ進めています。	提出数が、100ではありませんでしたので、次回は、回答数を引き上げるために、リマインドを徹底します。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		定期的に個人面談を行っています。	職員の意見は吸い上げています。それらは、職員採用と切り離せない問題であり、早急に改善すべき点と考えます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3	開所5年未満の為、実施していません。	実施した際には、改善します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	3		法人が、専門家に依頼し、安全管理研修を実施しております。また、越谷市の虐待研修や、その他研修に参加し役立てています。	人手が充足した際には、支援センターさんが主宰してくださる研修にも参加したいと考えます。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		公表しております。	公表している内容と、実施している内容に、齟齬がないか、確認いたします。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	3		発達段階や、生活スタイル、ニーズに合わせて応用行動分析に基づき、分析し計画を作成しています。	今後、児発管だけでなく、職員もカンファレンスに参加することで、保護者さまの話を直接聞く機会が必要と考えます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		原案作成後には、カンファレンスを開催し、職員の意見も参考に本案を作成しています。	カンファレンスだけに限らず、日々の職員さんの気づきを参考に、計画を作成します。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		計画と活動の繋がりを考え、支援を行っています。	生活動作、集団活動、個別プログラムなど、それぞれの活動と、計画、ニーズ、願いに繋がるかを今一度確認します。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3		応用行動に基づき、ABCシートや、DTTのデータシートを使い、現状把握と成長を確認しています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3		ご家族様のご要望を第一に、家族支援・移行支援の内容を決めています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		個別プログラムは、担当を決めずに、職員全員が関わることで、般化しやすい環境にしています。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	新しいこと、繰り返すべきことの目的を明確にし、固定化しないようにしています。	お子さまが、当園以外の場所でも成長する機会があり、お子さまのその日の段階を適切に理解する必要があると考えます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3	個別と集団の時間を、課題に合わせて設けています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	毎日実施しています。	個別プログラムで実施しているABAのDTTのスキルアップを目指し、児発管が見守る時間を増やします。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	毎日実施しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3	支援の記録や、データを残しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	モニタリング、計画の更新は、確実にしています。	他の職員も、同席することで、保護者さまへの理解が深まると考えます。人員を増やすことで、複数で対応することを試みます。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	児童発達支援管理責任者が、幼稚園や保育園との連携を行っています。	現在は、児発管のみが出席していますが、職員の同行も検討します。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	必要に応じて、児童相談所や子ども福祉課にご相談するなど、連携する体制は、整えています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	利用者さんが併用している幼稚園や保育園に訪問させていただいたり、保護者さまの以来の元、電話で相談対応もしております。	今後、お子さまが併用される幼保が、増えますので、連携させていただけるよう、努めます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3		就学先との繋がりが、まだありません。幼児期に登園のみを利用している方の為にも、小学校との繋がりを模索したいところです。
	28	(28～30は、センターのみ回答)			
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答)			研修のご案内をいただいておりますが、日程によっては、参加できていません。日程調整に心がけ、児童発達支援センターからの発信を受け取りたいと思います。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	2	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		3	幼稚園や保育園と併用しているお子さまが殆どですので、限られた時間で、療育施設としてやるべき優先順位を考慮しています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3		お子さまへの関わり方に関しては、毎日ミーティングで振り返っています。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	ペアレントトレーニングの実施、研修会、外部研修の発信など、情報提供を行っています。	前回の開催は、希望された全員が参加することができませんでした。企画の日数を増やすことを検討します。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	契約の際に、説明しています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3	計画の更新の際には、保護者さまのご意向を確認し、アセスメントも同時に行っています。	計画更新時にも限らず、保護者さまのご要望に応じて、意向を確認します。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		ご相談にして、必要に応じて、電話、面談を行い、対応しています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	1	個々に、ご兄弟との関わりを相談していただいた際には、お答えしております。	交流といえる機会は設けていませんので、ニーズを確認して検討します。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		連絡ツールを利用して、いつでも相談内容を受け取れる状態になっています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3		イベントの案内は、連絡ツールを用いて、発信しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		鍵付き書庫に、管理すると共に、関係機関との話の前には、必ず承諾を得ています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		3		お子さまの特性や、活動の優先順位を考え、事業所内だけでのイベント等に治めています。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3		実施しています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3		訓練を行っています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3		必要書類を提出いただいています。また、お預かりの際に、健康状態を確認しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3		個々に対応し、薬やエビペンをご用意いただくなどしています。	定期的に応急処置の訓練を受けることで、万が一の際に、行動できるよう、訓練します。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		法人主催の外部講師の研修に参加しています。	研修内容と、実際の療育園の環境を照らし合わせることで、研修を活かします。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3		避難訓練だけでなく、保護者さまと、連絡訓練も行っています。	万が一の時に、お子さまを確実に保護者さまのもとに、引き渡しできるように、定期的に連絡訓練を行います。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3		法人主催の外部講師の研修に参加しています。	ヒヤリハットの分析を基に、子どもたちの見守り方を、見直します。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		委員会の元、研修を実施し、さらに、外部研修に参加して情報を得ています。	今後、非常勤の職員が入職予定ですので、虐待防止に関するルールを、今一度確認します。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3		必要なお子さまには、記載しています。	園内研修だけでなく、外部の研修にも参加し、身体拘束を深く理解することに務めます。